

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	鎌田 真理子	担当教員					

授業の概要	卒業研究とは大学での学びの成果を研究論文として執筆するものである。これまでの学部教育や社会体験等で学んできた知識・技術・実践を踏まえ、自身の研究における興味や関心から研究テーマを決定する。この研究テーマについて研究論文作成の手法を用いて資料・文献・データの読み込みの後に、卒業論文のテーマを確定し仮説の設定・研究手法の決定・執筆の諸過程で卒論指導を受けながら作業を進めていく。社会的視点での基本的な卒業研究手法の習得を目的としている。						
到達目標	1. 先行研究の文献やデータを講読し、興味関心のあるテーマを絞り込みながら、自身の研究テーマについて説明できる。 2. 社会学の研究スタイルを理解し、卒業論文の研究手法を決定し、研究を進める事ができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1. これまでの研究活動等で培った知識・経験・スキルを総動員し、興味関心のあるテーマを探求する。具体的には日常の中での思索を怠らずに考え続けることで、テーマや情報等に遭遇することが可能となる。 2. 興味関心からのテーマでは浅薄であるため、文献・資料・データなどを収集し読み込んでいく。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 指定された期日までに執筆や報告を実施できる。 2. 研究テーマに必要な資料・文献・データを収集し、熟読および理解している。 3. 卒業研究の指導を定期的に受けている。	1. 指定された期日までに執筆や報告を十分に準備をした後に実施できる。 2. 研究テーマに必要な資料・文献・データを早期から収集し、十分に熟読および理解している。 3. 卒業研究の指導を定期的に受け、指導後の改善を教員にフィードバックしている。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○	○	○		40%
小テスト・授業内レポート	○		○		○		20%
宿題・授業外レポート	○		○		○		20%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			20%

課題、評価のフィードバック	提出レポートやゼミ時間での教員によるアドバイスを実施。 卒業研究は指導教員の指導を受けながら構築していくため、指導を定期的に受けることが必要である。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	卒業論文の中間報告①	卒業研究中間報告の準備を行う。	
	第17回	卒業論文の中間報告②	卒業研究中間報告を実施しアドバイスを受ける。	
	第18回	卒業論文の執筆①	卒業研究執筆原稿の添削指導の実施。	
	第19回	卒業論文の執筆②	卒業研究執筆原稿の添削指導の実施。	
	第20回	卒業論文の書き方①	論理の展開について概説、指導。	
	第21回	卒業論文の書き方②	データ、表・グラフ等の作成と記載についての概説。	
	第22回	卒業論文の書き方③	注や引用の付け方についての概説。	
	第23回	卒業論文の執筆①	執筆原稿の個別指導。	
	第24回	卒業論文の執筆②	執筆原稿の個別指導。	
	第25回	卒業論文の執筆③	執筆原稿の個別指導。	
	第26回	卒業論文中間報告	卒業研究進捗状況についての中間報告会の実施。	
	第27回	卒業論文推敲	各自で卒業研究提出のための準備作業。	
	第28回	卒業論文の印刷・製本	各自で卒業研究提出のための準備作業。	
	第29回	卒業論文完成後の提出	卒業研究提出。	
	第30回	卒業論文報告会	卒業研究報告会の開催。	
		試験	試験は実施しない	
授業の進め方		個別指導やゼミ合宿で面接相談を実施し、指導を重ねていく。		
授業外学習の指示		社会調査、ヒヤリング、フィールドワーク、情報収集などで大学外との関わりが発生するため、指導教員と相談のうえ注意や指導を受けながら進めていくことが大切である。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	適時、個別に紹介をしていく。
参考書	適時、紹介をする。
参考URLなど	
その他	

	回次	テーマ	内容	備考
授業計画	第1回	指導卒業論文作成ガイダンス	卒業研究とは何か、卒業論文とはどのような意義があるのか、研究方法、研究計画、執筆スタイル等の概要について概説する。	
	第2回	卒業論文の資料収集①	資料収集の仕方などを概説する。	
	第3回	卒業論文の資料収集②	資料収集を実施し、読み込み、テーマ設定とつなげていく。	
	第4回	卒業論文の書き方の詳細な展開方法	卒業論文の書き方の基本について概説をする。	
	第5回	卒業論文中間報告	卒業研究のテーマおよび研究計画をまとめを第一回目として発表原稿を作成し、報告会を開催する。	
	第6回	参考文献・資料・データ収集法と資料の読み込み①	参考文献・資料・データ収集法と資料の読み込み方を概説し、実施していく。	
	第7回	参考文献・資料・データ収集法と資料の読み込み②	参考文献・資料・データ収集法と資料の読み込み方を概説し、実施していく。	
	第8回	参考文献・資料・データ収集法と資料の読み込み③	参考文献・資料・データ収集法と資料の読み込み方を概説し、実施していく。	
	第9回	卒業論文作成のテーマ設定と研究計画	卒業研究のテーマの決定および研究計画の確認を行う。	
	第10回	卒業論文作成および中間報告	卒業論文作成の中間報告の実施。	
	第11回	卒業論文参考文献・資料・データ収集と読み込み	収集した参考文献、資料、データを読み込む。	
	第12回	事例検討・調査などの実施	必要に応じて事例検討ヒヤリング、質問紙調査、フィールドワークなどを実施する。	
	第13回	卒業論文のスタイルについての確認	章構成の確認をしたうえで、修正などのアドバイスを実施。	
	第14回	卒業論文のスタイルについての確認	章構成の確認をしたうえで、修正などのアドバイスを実施。	
	第15回	卒業論文で使用する資料・文献・データの最終確認	夏休みなどの長期休みなどを利用した情報収集計画を立てる。	
	試験	試験は実施しない。		

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	林 洋一	担当教員					

授業の概要	地域教養学科における4年間の学修をまとめ、受講者各自の関心に基づいた研究テーマを設定して卒業研究を行い、その結果を卒業論文として完成させることを目的とする。また、構想発表会、卒論発表会等で自らの研究を適切にプレゼンテーションする能力を高める。						
到達目標	①各自の設定した研究テーマに基づいて先行研究を調べ、まとめることができる。 ②研究テーマに最適な心理学的研究方法を用いて、実証研究を進めることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	大学4年間のまとめとして「卒業論文」を作成することが最大の目的である。そのためには、4年間の学修で得た知識・技術を最大限に活用する必要がある。特に、研究計画を緻密に立て、最適な統計的データ解析法を用いてデータ解析し、論理的な文章としての卒業研究を行う。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
大学4年間の学修成果を基にして卒業研究を行い、卒業論文を完成させることができる。完成した論文を、卒業論文発表会でプレゼンテーションできる。	大学4年間の学修成果を基にして卒業研究を行い、卒業論文を完成させることができる。さらに、卒業研究を開始する前に十分な先行研究の検討を行い、高度なデータ解析法を用いてデータを解析するとともに、得られたデータから適切に考察を行う。また、その成果を、卒業論文発表会で洗練された形でプレゼンテーションできる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		25%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		25%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		50%

課題、評価のフィードバック	授業時の発表、課題レポートに対して、直接的なフィードバックを行う。
---------------	-----------------------------------

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	柳澤孝主	担当教員					

授業の概要	この時間では、本学で学び得てきた知見及び見識の集大成として、専門的なアカデミックスキルやリテラシーを生かした卒業研究を展開し、論文を完成させる。						
到達目標	これまでのメジャー及びサブメジャー関連科目の講義や演習をもとに、学生が選択したテーマに基づき、これまで修得した専門的な知識、視点並びに技術を生かし、研究論文にまとめられる能力を身につけることを到達目標とする。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	地域社会の様々な生活課題に関心を持ち、地域社会一般の問題、コミュニケーション、社会福祉に関する見識を広め、自分の意見をまとめることが大切である。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①地域社会の生活課題に関心を持ち、研究テーマを設定することができる。 ②興味関心のある具体的な生活課題に関する研究計画を策定することができる。 ③具体的な研究テーマについて、要点を整理することができる。 ④具体的な研究テーマに沿った論文をまとめることができる。	①地域社会の生活課題について、より焦点を絞った、的確な研究テーマを設定することができる。 ②生活課題について、先行研究を踏まえた様々な文献・資料を読み込んで研究計画を策定することができる。 ③具体的な研究テーマについて、要点を整理することができる。 ④具体的な研究テーマに沿った論文をまとめることができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○				○		20%
宿題・授業外レポート		○			○		70%
授業態度・授業への参加			○	○			10%
出席			○	○			加点はしない。欠席は減点の場合あり。

課題、評価のフィードバック	①課題の振り返りを行い、担当教員がコメントを行う。 ②全体で学習結果に関して意見交換を行う。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	はじめに(ガイダンス)	年間の予定を把握し、これまで学んできたことを振り返り、自分自身が関心を持って取り組めるテーマの輪郭を考え検討する。	
	第2回	テーマの発表	自分自身の取り組むテーマを提示し、その選択理由、動機、先行研究(著書、論文、データ等)を整理し説明する。	
	第3回	アウトラインの提示①	キーワードを含むアウトラインを提示する。論文の目次につながるようなものをイメージして説明する。	
	第4回	アウトラインの提示②	前回のアウトラインの提示を受けて、文章によるアウトラインを作成し説明する。参考文献も提示する。	
	第5回	アウトラインの提示③	前回までに作成してきたアウトラインを振り返り、必要な修正を加える。引用予定箇所等を入力しておく。	
	第6回	目次の作成	前回までのアウトラインを受けて卒業論文の目次を作成する。併せて、序文を2000字程度で文章化する。	
	第7回	中間発表①	目次に沿って文章化したものを発表し合い、お互いのコメントを出し合う。	
	第8回	中間発表②	前回の発表に修正を加え、目次、序文、これまで作成してきた文章の要約等をまとめ、必要に応じて合宿形式等を活用しながら発表する。	
	第9回	修正事項の確認	中間発表によって得た事項を検討し、変更点を提示しその理由を文章化して明確にする。	
	第10回	仕上げへ向けての発表①	文章化している部分の要約を作成し、発表する。ゼミ員及び担当教員のコメントを受ける。	
	第11回	仕上げへ向けての発表②	前回と同様の機会を作り、相互研鑽し合う。	
	第12回	仕上げへ向けての発表③	前回と同様の機会を作り、相互研鑽し合う。	
	第13回	仕上げへ向けての発表④	前回と同様の機会を作り、相互研鑽し合う。	
	第14回	論文の仮提出	卒業論文を完成させ、担当教員に提出する。確認し合いたい点を発表し合う。	
	第15回	修正、最終点検、提出へ	担当教員による指摘事項を検討し、かつ修正し、論文作成基準等の最終点検を行い、提出に備える。	
	試験	期末試験は実施しない。		
授業の進め方		受講生自身の問題関心に従って、発表内容を作成し提示し、コメントを受け、修正を加えていく。		
授業外学習の指示		発表内容そのもの、要約等を必ず行い毎回の授業に備える。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	テーマに関する文献等を各自に提示していく。
参考書	テーマに関する文献等を各自に提示していく。
参考URLなど	テーマに関して各自に提示していく。
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	名取洋典	担当教員					

授業の概要	大学での学習の総まとめとして、各自の問題意識に基づいて卒業研究を行い、その結果をまとめ卒業論文を執筆する。研究テーマの設定とその具体化の手続き、心理学研究の方法論に対する知識・理解と応用力、学術論文の書き方等を習得することを目的とする。目的達成のためには、自らスケジュール管理を行い、研究を遂行する必要がある。研究のテーマは各自の問題意識にゆだねる。1. 先行研究に基づいて研究目的を定め、2. 実際にデータを収集し、3. データを分析した結果をもとに考察するという過程を各自が進めていく。
到達目標	1 研究テーマの先行研究に関する文献を講読し、研究の課題を説明することができる。 2 心理学に関する研究手法を習得し、研究目的に合致した方法で観察・実験・調査を進めることができる。 3 研究結果をまとめ、卒業研究論文を作成することができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	先行研究の収集・検討から始まり、研究目的の設定や実験の準備・実施、結果の分析・考察、そして論文執筆に至るまで、いずれも手間と時間を要する作業である。したがって、時間に余裕を持って計画的に進めていくこと。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	<input type="radio"/> 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	<input type="radio"/> 2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	<input type="radio"/> 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	<input type="radio"/> 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	<input type="radio"/> 5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 先行研究をまとめ、研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。 2 実験を通してデータを取得し、適切な手法で分析ができる。 3 指定された分量および構成の卒業論文を作成することができる。 4 所定の様式で発表資料を作成し、時間内での研究発表を行うことができる。	1 先行研究をまとめ、学術的に独創性のある研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。 2 妥当性・信頼性の高い方法でデータを取得し、多面的な手法で分析ができる。 3 論理的な文章構成で、説得力のある卒業論文を作成することができる。 4 聴衆の理解度に合わせて、内容を調整しながら研究発表をし、質疑にも適切に対応できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
先行研究の総括	○	○	○				10%
研究テーマ・研究計画	○	○	○				10%
データの収集		○		○	○		15%
データ分析	○				○		15%
論文内容	○	○	○	○	○		35%
研究発表	○			○	○		15%

課題、評価のフィードバック	1 研究の進捗状況が報告される度に、ディスカッションを行い問題点等を整理する。 2 卒業研究論文や発表会要旨は草稿の段階で添削し、返却する。manab@IMUのプロジェクト機能も利用する。 3 発表会の準備として練習会を複数回行い、その都度修正を行う。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	卒業研究テーマの例1 小学生時代の読書行動と大学生の共感性との関係	大学生を対象に、Web上での調査による回想データを用いて、読書と共感性の関係を検討した。	
	第2回	卒業研究テーマの例2 養育者の自己受容と子供の社会性に関する研究	(1)養育者の自己受容度のバランスと子供へのかかわり方の違い (2)子どもの社会性の高い行動の違いの2点を、実際の母子の様子 の観察から明らかにした。	
	第3回	卒業研究テーマの例3 ほめ言葉とフィードバックによる課題遂行の 変化	会話の中でのほめ言葉と正答数のフィードバックが、課題遂行にお よぼす影響を、100マス算とパズル課題を用いて検討した。	
	第4回	卒業研究テーマの例4 妬みは人を動機づけるか？	他者の優れた偽の遂行成績を提示された後、アナグラム課題の遂 行数がどのように変化するのか検討した。	
	第5回	卒業研究テーマの例5 大学生の信頼感と警戒心を抱く状況との関 係	大学生の信頼感を既存の尺度により測定するとともに、警戒心を 抱く状況を尋ねる質問紙調査を行い、両者の関係を検討した。	
	第6回	卒業研究テーマの例6 交通マナーと規範意識との関連	規範意識が交通マナーにどれほどの影響を与えているかについ て、年代比較を中心に、明らかにすることを目的とした。	
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
		試験		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回			
	第17回			
	第18回			
	第19回			
	第20回			
	第21回			
	第22回			
	第23回			
	第24回			
	第25回			
	第26回			
	第27回			
	第28回			
	第29回			
	第30回			
	試験			
授業の進め方				
授業外学習の指示		<p>研究の実施にあたり、先行研究に関する文献を読み込む(毎週120分程度)。また、研究目的・方法の検討、刺激・装置・質問紙などの準備を計画的に行う(毎週120分程度)。さらに、得られたデータの整理・分析・考察を行い、論文を計画的に執筆する(毎週120分程度)。</p> <p>(授業外学習時間: 毎週 ー 分)</p>		

教科書	使用しない。
参考書	各自の研究テーマに関連する文献・資料等を適宜紹介する。
参考URLなど	
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	末次晃	担当教員					

授業の概要	<p>「卒業研究」の目的は、卒業研究を行い、成果を卒業論文にまとめることである。それには、3年間学修してきた知識、技能を十二分に活用し、かつ卒業研究を実施していく中でそれらをさらに高度に洗練させていく必要がある。</p> <p>「卒業研究」では、テーマ決定、方法の検討、予備調査・実験計画と実施、予備的研究の結果を受けての本実験の計画立案、実施、データ分析、考察の順に進めていく。それぞれの段階ごとに、自ら調べて考えることが強く求められる。同時に自分でスケジュールを管理していく能力も求められる。また、4年間の学修の集大成として、受動的ではなく、自立的に研究を進めていくことが望まれる。</p> <p>なお、卒業論文作成以外に、卒論構想発表会(7月予定)と卒論発表会(2月予定)での発表も卒業研究の単位認定の要件とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究を調査、整理し、その上で、テーマを決めることができる。</li> <li>2. 卒業研究のための実験、調査を実施することができる。</li> <li>3. データを適切に分析することができる。</li> <li>4. データおよび先行研究を根拠として、論理的に考察することができる。</li> <li>5. 卒業研究の成果を論文にまとめることができる。</li> <li>6. 卒業研究を、スライドを使って口頭で発表することができる。</li> </ol>
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<p>最初に研究スケジュールを立てること。そして、常にそれを意識しながら、ときには研究スケジュールを修正しながらも、スケジュール通りに研究を進めていくこと。初めての本格的な研究実施であるため、やや甘い見通しで研究を進める傾向が見受けられるが、自身が想定するより遅いペースでしか研究は進まないことを強く意識して欲しい。また、卒論専用のノート(実験ノート)を作り、それを常に携帯し、調べたことや浮かんだアイデアをすぐに書き付けるようにしておくこと。</p>
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	○ 5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究を調査、整理し、まとめることができる。</li> <li>2. 実験、調査を実施することができる。</li> <li>3. データを適切に分析することができる。</li> <li>4. データおよび先行研究を根拠として、論理的に考察することができる。</li> <li>5. 卒業研究の成果を論文にまとめることができる。</li> <li>6. 卒業研究を、スライドを使って発表することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要十分な数の先行研究を調査、整理し、包括的なまとめができ、その内容に独創性がある。</li> <li>2. 実験計画に不適切な点がなく、適切に実験、調査を実施することができる。</li> <li>3. データを適切に分析し、結果の意味するところを十分理解することができる。</li> <li>4. データおよび先行研究を根拠として、反論も想定した論理的な考察ができる。</li> <li>5. 卒業研究の成果を、指定された書式どおりの論文にまとめることができる。</li> <li>6. 卒業研究を、スライドを使って理解しやすい発表をすることができ、質疑に適切な応答ができる。</li> </ol>

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
研究計画書	○	○	○		○		5%
ゼミ内での発表	○	○		○	○		5%
実験・調査の実施		○		○	○		5%
スケジュール管理		○	○	○			5%
データ分析	○	○					5%
論文内容	○	○	○		○		60%
発表		○	○	○	○		15%

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究を進める中での議論において、コメントする。</li> <li>2. ゼミ内での進捗状況発表会において、意見交換を行う。</li> <li>3. データ分析、結果にもとづく考察について、適宜、コメントする。</li> </ol>
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回			
	第17回			
	第18回			
	第19回			
	第20回			
	第21回			
	第22回			
	第23回			
	第24回			
	第25回			
	第26回			
	第27回			
	第28回			
	第29回			
	第30回			
		試験		
授業の進め方	ゼミでの議論を中心に進めていく。また、毎週進捗状況の報告を求める。			
授業外学習の指示	<p>研究計画書作成段階：広く関連情報を検索し、それを読み、ポイントを整理する(120分)。実験準備段階：先行研究を参考にしながら必要な装置、材料を準備していく(120分)。実施段階：実施しながらデータを整理する(120分)。分析：整理したデータを統計的に分析する(120分)。執筆：ポイントを整理しつつアウトラインを作成し、執筆する(120分)。</p> <p>(授業外学習時間：毎週 120 分)</p>			

教科書	使用しない。
参考書	適宜、紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	追加資料の配付、進捗状況の報告などで、manab@IMUを使用する。

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	卒業研究のテーマ例		
	第2回	自己顔のサイズの知覚に関する研究－モーフィング技術を用いた検討－	自己の身体認知の中で、サイズ、とりわけ顔のサイズがどの程度正確に認知されているのかをモーフィング技術を使って検討する。	
	第3回	ラバーハンドイリュージョンにおける視覚的要因の検討－枠を通して観察することの効果－	自己概念と密接に関わる自己所有感の発生機序を検討する方法のひとつ「ラバー・ハンドイリュージョン」を取り上げ、この現象が成立する諸要因のうち、視覚的な要因を実験的に分析する。	
	第4回	自身の顔に対するイメージと自己肯定意識との関連性	自己顔認知過程における個人差要因として自己肯定意識を取り上げ、その高低によって自己顔認知に違いがあるのかどうかをモーフィングを使って検討する。	
	第5回	日本人大学生を対象にした「低い声の魅力」の検討－投票場面における選択行動を対象にして－	音声ピッチによって対人印象はどのように変化するのか。特に低い声と高い声によるリーダーとしての適正判断を中心に検討した。	
	第6回	観察と結果の予測は運動学習を促進するか－バドミントンのサーブを対象として－	観察しながら結果を予測する課題によって、運動技能のパフォーマンスがより効率的に向上するかを、バドミントンのダブルスサーブを対象に検討した。	
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験			

## 卒論チェックリスト（保存用）

### 1. 全体

- 表紙に、タイトル、学部、学科名、学籍番号、氏名が記載されている
- 目次がつけられており、ページ番号が正しく記載されている
- 表紙、目次以外のページに、正しくページ番号が付けられている
- 誤字脱字・漢字変換ミス等がない
- 数字は半角文字になっている
- 目的・方法・結果・考察の4部構成になっている
- 方法・結果の時制が過去形で書かれている
- 方法は、項目ごと（例 参加者・材料・手続きなど）に書かれている
- 結果には、データの分析方法が明記されている
- 図表を挿入するときには、図表について本文中に記述されている
- 図のタイトルは下に、表のタイトルは上に書かれている
- 図（グラフ）の縦軸・横軸が明記されている
- 図表に必要な単位が表記されている
- 考察は、得られた結果に基づいている
- 考察は、目的に対する答えになっている
- 参考・引用文献が正しい形式で明記されている
- 先行研究の引用方法は適切である
- 他人のレポートや文章をさも自分で書いたかのようにコピーしていない
- 概要を把握できるタイトルが付けられている

### 2. 目的

- 研究目的が明確に述べられている
- キーとなる術語が適切に説明・定義されている
- 先行研究で分かっていることが適切にまとめられている
- 先行研究で不明な点、不備などが指摘できている
- 先行研究のまとめを踏まえて研究目的の理由が論理的に述べられている

### 3. 方法

- 目的に合致した方法（参加者、課題、手続き）が採用されている
- 参加者情報について適切に記述している
- 使用した機材や材料について丁寧に記述してある
- 手続きがわかりやすく書かれている

#### 4. 結果

- 目的に適したデータ分析方法が採用されている
- データを分かりやすく説明している
- データをどのように整理したか、書かれている
- 整理したデータを図表でわかりやすくまとめている
- 図表の形式は適切である
- 適切な統計的方法を使って分析している
- 分析結果が適切に記述されている

#### 5. 考察

- 節の始めに、再度、目的を述べている
- つぎに、結果の要点が述べられている
- 結果を根拠とした考察となっている
- この研究で何が分かったのか明記されている
- この研究で分からなかったことについて述べられてる
- 今後の展望（課題、発展方法など）について述べられている

#### 6. 要約

- 字数は適切である
- 目的、方法、結果、考察がすべて含まれている
- 指定されたとおりの書式になっている

#### 7. 口頭発表

- 字数は適切である
- 目的、方法、結果、考察がすべて含まれている
- スライドに見にくい箇所がない
- 発表態度は落ち着いていた
- フロアの聴衆を身ながら発表できた
- 発表時間内に終わることができた
- 的確に、質問に回答できている

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	能地克宜	担当教員					

授業の概要	専門ゼミ1、2を通して修得した、卒業論文作成のための具体的方法に基づき加筆・修正された卒業論文(の一部)を用い、卒業論文執筆者が相互に議論し合うことを通して、明確な方法意識をもって取り組むための具体的な知識を確認し、各自にとって必要と思われる事項をそれぞれ修得していくこと、また、担当者との個別指導によって各自の卒業論文作成における課題を把握し、十分な考察・分析・検討がなされた卒業論文を提出することを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分析対象の作品を精読し、それぞれの卒論テーマに沿って分析することができる。</li> <li>2. 論旨の明確な発表を行うことができる。</li> <li>3. 発表に対して積極的に有効な討議を行うことができる。</li> <li>4. 各自の分析テーマや討議の内容を踏まえ、論旨が明確かつ独自性のある卒論を作成することができる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	卒業論文完成に向けて、常に「読む／考える／書く」を実践すること。新たに発見した情報や思い浮かんだアイデアをメモするための道具(手書き・入力どちらでも)を常に携帯すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分析対象の作品を精読し、それぞれの卒論テーマに沿って分析できる。</li> <li>2. 論旨の明確な発表を行い、積極的に有効な討議を行うことができる。</li> <li>3. 討議の内容を踏まえ、論旨が明確かつ独自性のある卒論を作成できる。</li> <li>4. 各自の分析テーマや討議の内容を踏まえ、論旨が明確かつ独自性のある卒論を作成できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分析対象の作品を精読し、それぞれの卒論テーマに沿って分析できる。</li> <li>2. 論旨の明確な発表を行い、積極的に有効な討議を行うことができる。</li> <li>3. 討議の内容を踏まえ、論旨が明確かつ独自性のある卒論を作成できる。</li> <li>4. 各自の分析テーマや討議の内容を踏まえ、論旨が明確かつ独自性のある卒論を作成できる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
発表レジュメ作成	○	○	○	○	○		10%
演習口頭発表	○	○	○	○	○		20%
卒業論文作成	○	○	○	○	○		50%
卒論口頭試験	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	演習発表時、個別指導時に卒業論文完成に向けての問題点の指摘等を行う。
---------------	------------------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	卒業論文全体指導①	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の序論を作成する(1)。	
	第2回	卒業論文全体指導②	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の序論を作成する(2)。	
	第3回	卒業論文全体指導③	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の序論を作成する(3)。	
	第4回	卒業論文全体指導④	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の序論を作成する(4)。	
	第5回	卒業論文全体指導⑤	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の序論を作成する(5)。	
	第6回	卒業論文全体指導⑥	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論①を作成する(1)。	
	第7回	卒業論文全体指導⑦	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論①を作成する(2)。	
	第8回	卒業論文全体指導⑧	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論①を作成する(3)。	
	第9回	卒業論文全体指導⑨	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論①を作成する(4)。	
	第10回	卒業論文全体指導⑩	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論①を作成する(5)。	
	第11回	卒業論文全体指導⑪	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論②を作成する(1)。	
	第12回	卒業論文全体指導⑫	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論②を作成する(2)。	
	第13回	卒業論文全体指導⑬	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論②を作成する(3)。	
	第14回	卒業論文全体指導⑭	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論②を作成する(4)。	
	第15回	卒業論文全体指導⑮	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論②を作成する(5)。	
試験	試験は実施しない。			

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	卒業論文個別指導①	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論③を作成する(1)。	
	第17回	卒業論文個別指導②	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論③を作成する(2)。	
	第18回	卒業論文個別指導③	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論③を作成する(3)。	
	第19回	卒業論文個別指導④	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論③を作成する(4)。	
	第20回	卒業論文個別指導⑤	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の本論③を作成する(5)。	
	第21回	卒業論文個別指導⑥	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の結論を作成する(1)。	
	第22回	卒業論文個別指導⑦	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の結論を作成する(2)。	
	第23回	卒業論文個別指導⑧	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の結論を作成する(3)。	
	第24回	卒業論文個別指導⑨	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の結論を作成する(4)。	
	第25回	卒業論文個別指導⑩	各自の設定したテーマ・内容に応じて卒業論文の結論を作成する(5)。	
	第26回	卒業論文個別指導⑪	これまで作成してきた卒業論文全体の統一性をはかり、修正を加える。また、卒業論文本編に要旨、注、参考文献等を加えて製本する。(1)	
	第27回	卒業論文個別指導⑫	これまで作成してきた卒業論文全体の統一性をはかり、修正を加える。また、卒業論文本編に要旨、注、参考文献等を加えて製本する。(2)	
	第28回	卒業論文個別指導⑬	これまで作成してきた卒業論文全体の統一性をはかり、修正を加える。また、卒業論文本編に要旨、注、参考文献等を加えて製本する。(3)	
	第29回	卒業論文個別指導⑭	これまで作成してきた卒業論文全体の統一性をはかり、修正を加える。また、卒業論文本編に要旨、注、参考文献等を加えて製本する。(4)	
	第30回	卒業論文個別指導⑮	これまで作成してきた卒業論文全体の統一性をはかり、修正を加える。また、卒業論文本編に要旨、注、参考文献等を加えて製本する。(5)	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方	前半は演習発表形式とする。後半は個別指導の形をとる。			
授業外学習の指示	次回の発表時までに必ずレジュメ(卒業論文の一部)を作成すること。授業後は指摘をふまえ修正を加えておくこと。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)			

教科書	特に指定しない。各自が卒論の分析対象とするテキストは自腹で購入すること。
参考書	授業時に適宜指示する。
参考URLなど	
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	中尾剛	担当教員					

授業の概要	卒業研究は、これまで学部教育で学んできた知識や技術を再確認する集大成の科目である。講義の受講や就職活動を行いながら、自らスケジュール管理を行い、研究を行っていく必要がある。卒業研究では、コンピュータシステムや情報通信に関する研究を通して情報通信技術への興味と理解を深め、情報通信技術を基礎とした科学的な考え方を修得するとともに、情報通信技術に関する研究手法を習得することを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマの先行研究に関する文献を講読し、研究の課題を説明することができる。</li> <li>2. 情報通信工学に関する研究手法を習得し、実験、システム設計開発を進めることができる。</li> <li>3. 研究結果をまとめ、卒業研究論文を作成することができる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	3年次までに開講されるICTサブメジャー科目(特にICT基礎、ICT基礎実習、Webデザイン、データベース1および2)の履修を強く勧める。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	<input type="radio"/>	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	<input type="radio"/>	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	<input type="radio"/>	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	<input type="radio"/>	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	<input type="radio"/>	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究テーマの先行研究に関する文献を講読し、研究の課題を説明することができる。</li> <li>② 情報通信工学に関する研究手法を習得し、実験、システム設計開発を進めることができる。</li> <li>③ 研究結果をまとめ、卒業研究論文を作成することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究テーマの先行研究に関して、発展方向を提案することができる。</li> <li>② 情報通信技術に関する実験、システム設計開発を自ら進めることができる。</li> <li>③ 研究結果をまとめ、卒業研究論文を作成し、他者の研究に関して意見を述べるができる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○				○		20%
授業態度・授業への参加			○	○			10%
マイコン製作	○	○	○	○	○		20%
プログラム	○	○	○	○	○		20%
作品発表	○	○			○		30%

課題、評価のフィードバック	週に1度の進捗報告会を実施し、次週までの解決課題を提示する。
---------------	--------------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	卒業研究テーマ例1 Webアプリケーションの開発	パソコンやタブレット、スマートフォンからアクセスする様々なWebアプリケーションの仕組みやユーザインターフェースに関する研究を行う	
	第2回	卒業研究テーマ例2 スマートフォンアプリケーションの開発	スマートフォンやタブレット用に様々なアプリケーションを開発する	
	第3回	卒業研究テーマ例3 情報教育に関する調査研究	小中高校の情報教育および情報モラル教育に関する調査研究を行う	
	第4回	卒業研究テーマ例4 プログラミング教育の教材開発	小学校で必修化されるプログラミング教育の教材開発を行う	
	第5回			
	第6回			
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
試験				

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回			
	第17回			
	第18回			
	第19回			
	第20回			
	第21回			
	第22回			
	第23回			
	第24回			
	第25回			
	第26回			
	第27回			
	第28回			
	第29回			
	第30回			
	試験			
授業の進め方	基本的に毎週進捗報告会を実施し、それぞれの進捗報告を行い、学生相互に意見を述べて、次週までの目標を定める。			
授業外学習の指示	卒業研究は授業ではないので、毎日研究開発を行うことが重要である。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)			

教科書	なし
参考書	講義中に紹介する
参考URLなど	講義中に紹介する
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	大原貴弘	担当教員					

授業の概要	学部教育の集大成となる、卒業研究の実施ならびに卒業論文の作成をすることを目的とする。具体的には、(1) 先行研究の収集・検討、(2) 研究テーマの構築、(3) 研究目的・方法の設定、(4) 実験の準備と実施、(5) 結果の分析・考察を行った上で、(6) 卒業論文の作成を行い、その後、(7) 研究発表を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究をまとめ、研究テーマを決定し、研究計画を立てることができる。</li> <li>2. 心理学に関する研究手法に基づいて、実験を進めることができる。</li> <li>3. 研究成果をまとめ、卒業論文を作成し、研究発表を行うことができる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	先行研究の収集・検討から始まり、研究目的の設定や実験の準備・実施、結果の分析・考察、そして論文執筆に至るまで、いずれも手間と時間を要する作業である。したがって、時間に余裕を持って計画的に進めていくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究をまとめ、研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。</li> <li>2. 実験を通してデータを取得し、適切な手法で分析ができる。</li> <li>3. 指定された分量および構成の卒業論文を作成することができる。</li> <li>4. 所定の様式で発表資料を作成し、時間内での研究発表を行うことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究をまとめ、学術的に独創性のある研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。</li> <li>2. 妥当性・信頼性の高い方法でデータを取得し、多面的な手法で分析ができる。</li> <li>3. 論理的な文章構成で、説得力のある卒業論文を作成することができる。</li> <li>4. 聴衆の理解度に合わせて、内容を調整しながら研究発表をし、質疑にも適切に対応できる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
研究実施	○	○	○	○	○		45%
論文内容	○	○	○	○	○		40%
研究発表	○			○	○		15%

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究の収集・検討、ならびに研究テーマ・研究計画の立案に際し、適宜コメントする。</li> <li>2. 実験・調査の準備、実施、ならびにデータの分析・考察に際し、その進捗のスピードも含めて定期的にコメントする。</li> <li>3. 論文執筆、研究発表の準備の際にも適宜コメントをし、より完成度の高い卒業論文作成へと導いてゆく。</li> </ol>
---------------	--

回次	テーマ	授業内容	備考
第1回	卒業研究テーマの例1 被暗示性がパレイドリア錯視に及ぼす影響	特定の模様などが人の顔のように見える現象「パレイドリア錯視」の生じやすさが、性格によって変わるか否かについて、被暗示性に焦点を当てて検討した。	
第2回	卒業研究テーマの例2 アニメシー知覚による共同注意の生起	図形の動きに生物らしさを感じる現象は「アニメシー知覚」と呼ばれる。アニメシー知覚を喚起する視覚対象の方向によって、注意のシフトが生じるか否かについて検討した。	
第3回	卒業研究テーマの例3 絵画の「余白感」が主観的時間に及ぼす影響	絵画鑑賞時の主観的な時間感覚は、絵画内の余白の大きさによって影響を受けるか否かについて、実験的に検討した。	
第4回	卒業研究テーマの例4 体型から推測される声の印象	マンガのキャラクターの体型から、どのような声質・音声を推測するのかについて、シルエット刺激を用いて実験的に検討した。	
第5回	卒業研究テーマの例5 メガネ着用による社会的プライミング効果	黒縁メガネなど特定のステレオタイプを伴うメガネを着用することで、性格特性の自己評価がどのように変化するかについて、実験的に検証した。	
第6回	卒業研究テーマの例6 似顔絵描画が顔の記憶に及ぼす影響	未知顔を記憶する際、似顔絵を描くことが記憶成績に及ぼす影響について、実験的に検証した。	
第7回	卒業研究テーマの例7 身体動作が虚記憶再生に及ぼす影響	単語リストの記銘段階において、「捨てる」「しまう」といった身体動作をすることにより、これらの動作名の虚記憶が再生されるか否かについて実験的に検証した。	
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
試験			

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回			
	第17回			
	第18回			
	第19回			
	第20回			
	第21回			
	第22回			
	第23回			
	第24回			
	第25回			
	第26回			
	第27回			
	第28回			
	第29回			
	第30回			
	試験			
授業の進め方	各自、卒業研究の進捗状況について報告した後、教員や他のメンバーと議論を交わし、次回まで卒業研究を進めてゆく。			
授業外学習の指示	<p>研究の実施にあたり、先行研究に関する文献を読み込む(毎週120分程度)。  また、研究目的・方法の検討、刺激・装置・質問紙などの準備を計画的に行う(毎週120分程度)。  さらに、得られたデータの整理・分析・考察を行い、論文を計画的に執筆する(毎週120分程度)。  (授業外学習時間: 毎週 120 分)</p>			

教科書	必要に応じて適宜指示する。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
参考URLなど	特に無し。
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	西村康平	担当教員					

授業の概要	大学でのこれまでの学修の成果として、卒業研究を行い、卒業論文を執筆する。ゼミ参加者各自の研究内容に沿って、先行研究の検討、調査活動、ディスカッションなどを行う。定期的に中間報告、レポート提出、成果発表などを行い、研究活動の指針とする。						
到達目標	(1)各自で選んだテーマに沿って卒業研究を行う。 (2)卒業研究の成果を、卒業論文としてまとめる。 (3)卒業研究についての成果発表を行う。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	ゼミでの活動内容は参加者の研究活動に応じて適宜変更する。研究遂行に必要な事柄は何かを検討し、担当教員に伝えること。 卒業論文を和文で執筆する場合は、研究テーマによっては英文アブストラクトの提出を要求する。確認、準備を行うこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	<input type="radio"/>	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	<input type="radio"/>	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	<input type="radio"/>	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	<input type="radio"/>	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	<input type="radio"/>	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
(1)各自で選んだテーマに沿って卒業研究を行い、何らかの新しい事柄を示す。 (2)卒業研究の成果を、卒業論文としてまとめる。 (3)卒業研究について発表を行い、研究成果を示す。	(1)各自で選んだテーマに沿って卒業研究を行い、学術的インパクトを含んだ新たな知見を示す。 (2)卒業研究の成果を、卒業論文として明確な形でまとめる。 (3)卒業研究について発表を行い、研究成果を明確に示す。質疑応答にも適切に対応する。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
授業への参加の姿勢		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	30%
個人プレゼンテーション	<input type="radio"/>	20%					
卒業研究／卒業論文	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	50%

課題、評価のフィードバック	レポート等はコメントを入れたうえで返却する。必要であれば個別に面談し、研究についてのアドバイスをを行う。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス	ゼミの概要、進め方、前期の予定等について説明する。	
	第2回	研究の方法(1)	学術研究および論文執筆の方法論について理解する。	テキストを使用
	第3回	研究の方法(2)	学術研究および論文執筆の方法論について理解する。	テキストを使用
	第4回	研究活動(1)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第5回	研究活動(2)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第6回	研究活動(3)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第7回	個人プレゼンテーション(1)	卒業研究の中間報告のプレゼンテーションを行う。	
	第8回	個人プレゼンテーション(2)	卒業研究の中間報告のプレゼンテーションを行う。	
	第9回	研究活動(4)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第10回	研究活動(5)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第11回	研究活動(6)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第12回	研究活動(7)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第13回	個人プレゼンテーション(3)	卒業研究の中間報告のプレゼンテーションを行う。	
	第14回	個人プレゼンテーション(4)	卒業研究の中間報告のプレゼンテーションを行う。	
	第15回	まとめ	前期のまとめを行い、後期の研究活動、論文執筆についてのプランを確認する。	
試験	期末試験は行わない。卒業研究の中間報告をレポート課題とする。			

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	ガイダンス	ゼミの概要、進め方、後期の予定等について説明する。	
	第17回	研究の方法(1)	学術研究および論文執筆の方法論について理解する。	テキストを使用
	第18回	研究の方法(2)	学術研究および論文執筆の方法論について理解する。	テキストを使用
	第19回	研究活動(8)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第20回	研究活動(9)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第21回	研究活動(10)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第22回	個人プレゼンテーション(5)	卒業研究の中間報告のプレゼンテーションを行う。	
	第23回	個人プレゼンテーション(6)	卒業研究の中間報告のプレゼンテーションを行う。	
	第24回	研究活動(11)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第25回	研究活動(12)	各自の研究内容に基づいて、検討、調査、ディスカッションなどの活動を行う。	
	第26回	卒論提出準備(1)	卒業論文の提出について、内容・形式の確認を行う。	
	第27回	卒論提出準備(2)	卒業論文の提出について、内容・形式の確認を行う。	
	第28回	個人プレゼンテーション(7)	卒業研究の成果を発表する。	
	第29回	個人プレゼンテーション(8)	卒業研究の成果を発表する。	
	第30回	まとめ	卒業研究について、各自で総括する。	
		試験	期末試験は行わない。卒業論文を評価の対象とする。	
授業の進め方		卒業研究について必要な研究活動を中心に行う。各自の研究の課題や進展具合について、報告できる状態にしておくこと。		
授業外学習の指示		授業前: 卒業研究の進展具合等をまとめ、報告できるようにしておく。(90分) 授業後: ゼミでのディスカッションを整理し、卒業研究に反映させる。(120分) (授業外学習時間: 毎週 210 分)		

教科書	1. 『新版 論文の教室』 戸田山和久 著、NHKブックス、ISBN: 978-4-14-091194-5 2. 配布プリント
参考書	
参考URLなど	
その他	ゼミに関する連絡事項はManab@IMUに掲載する。随時確認すること。

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	松本麻子	担当教員					

授業の概要	卒業論文の構想発表をし、研究テーマを定める。その後、各自研究を進める。その過程では、教員の指導を得ながら、中間発表を繰り返す。以上を通して、卒業論文を完成させることがこの科目の目的である。						
到達目標	(1) 論文の標準的な「構成」や「体裁」に則った卒業論文を完成させる。 (2) 独自の知見や資料的価値を有する卒業論文を完成させる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究にふさわしい「問い」を確定できるように、前期は必死に調査を続けること。</li> <li>・「問い」に対する「答え」を予測し調査を進めて欲しいが、「答え」に結びつけるための恣意的な調査はしないこと。</li> <li>・独自の調査結果(分析の材料。「この資料を持っているのは世界で私だけ」と言える資料)を得るよう努めること。</li> <li>・資料の分析、分析結果の記述については、随時、教員と相談しながら進めること。また、他の受講生の意見に耳を傾けること。</li> <li>・万事、計画的に進めること。</li> </ul>						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
(1) 論文の標準的な「構成」や「体裁」に則った卒業論文を完成させる。	(1) 論文の標準的な構成や体裁に則った卒業論文を完成させる。 (2) 独自の知見や資料的価値を有する卒業論文を完成させる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		60%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	主に個別面談において、各自の論文作成状況に応じたアドバイスやコメントを行う。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	この科目全体についてガイダンスを行う。	
	第2回	先行研究の講読①	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第3回	先行研究の講読②	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第4回	先行研究の講読③	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第5回	先行研究の講読④	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第6回	先行研究の講読⑤	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第7回	先行研究の講読⑥	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第8回	卒業論文構想発表①	受講生それぞれが卒業論文で取り上げようとする研究テーマについて、構想発表を行う。	
	第9回	卒業論文構想発表②	受講生それぞれが卒業論文で取り上げようとする研究テーマについて、構想発表を行う。	
	第10回	卒業論文構想発表③	受講生それぞれが卒業論文で取り上げようとする研究テーマについて、構想発表を行う。	
	第11回	卒業論文中間発表の準備	第8回～第10回の授業を通して定めた研究テーマについて、研究を進め、中間発表の準備をする。	
	第12回	卒業論文中間発表の準備	第8回～第10回の授業を通して定めた研究テーマについて、研究を進め、中間発表の準備をする。	
	第13回	第1回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第14回	第1回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第15回	第1回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
		試験	定期試験は行わない。	

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	第2回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第17回	第2回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第18回	第2回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第19回	第3回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第20回	第3回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第21回	第3回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第22回	第4回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第23回	第4回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第24回	第4回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第25回	第5回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第26回	第5回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第27回	第5回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第28回	卒業論文の最終調整①	受講生それぞれが卒業論文の最終的な仕上げを行う。	最終調整では、論文内容はもちろん、体裁(たとえば表紙や目次を付けるなど)にも気を配ること。
	第29回	卒業論文の最終調整②	受講生それぞれが卒業論文の最終的な仕上げを行う。	最終調整では、論文内容はもちろん、体裁(たとえば表紙や目次を付けるなど)にも気を配ること。
	第30回	卒業論文の発表	提出された卒業論文の口頭試問を実施する。	卒業論文で何を明らかにしたか、完結に説明できるようにしておくこと。
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方	演習形式			
授業外学習の指示	必要な授業外学習を卒業論文作成の進行状況に応じて指示する。 (授業外学習時間: 毎週 360 分)			

教科書	適宜、資料を配付する。
参考書	授業中に指示する。
参考URLなど	インターネットの情報は使用しない。
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	小池久恵	担当教員					

授業の概要	卒業論文の作成指導を全員のディスカッションと個別の面談をとっておこなう。毎回指示された課題に取り組み、計画的に論文を作成することを目的とする。						
到達目標	1. 先行研究をまとめ、研究テーマを決定し、論文作成計画を立てることができる。 2. 研究手法に基づいて、研究・論文執筆を進めることができる。 3. 研究成果をまとめ、卒業論文を作成し、研究発表をおこなうことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	まず先行研究の収集・整理を十分におこなうこと。 テーマを設定する → テーマに関するたくさんの課題(疑問)を見つける → 先行研究を読んで研究テーマを深める。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①論文を書くための基本的な知識及び研究テーマの概要を説明できる。 ②論文を組み立て、アウトラインを作成できる。 ③文献引用のルールを説明できる。 ④各章を執筆し、推敲をへて論文を完成できる。 ⑤卒業研究のまとめとして論文の内容を口頭で発表できる。	①論文を書くための基本的な知識、先行研究の内容を踏まえて研究の概要を説明できる。 ②論文を組み立て、アウトラインを作成し、内容を整理して概要を説明できる。 ③文献引用のルールに従って論文に必要な情報を選別できる。 ④各章と節の内容を論理的につなげて執筆し、丁寧な推敲をへて論文を完成できる。 ⑤卒業研究のまとめとして論文の内容を説得力のある表現を用いて発表できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		50%
授業態度・授業への参加							
論文内容	○	○	○	○	○		30%
研究発表	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	毎回提課題発表に関しコメントするとともに、提出ペーパーの添削・返却および解説をおこなう。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	卒業研究① テーマ設定、先行研究、アウトライン作成	先行研究を調べてテーマを絞り込み、テーマに合わせた研究方法を学ぶ。 要旨を考え、述べたい内容・順序に従ってアウトラインを作成する。	
	第2回	卒業研究② 資料・文献収集、論文作成、中間発表	文献資料の収集方法および参考文献の使い方を確認する。 文献資料の内容を整理して概要を説明、資料をどのように用いるのかを考える。 アウトラインを提示し、研究の進展状況を発表、問題点や今後の進め方を示す。	
	第3回	卒業研究③ 論文執筆	明快で説得力のある文章を書くための要点を確認する。 文献引用のルールに従って論文に必要な文献資料・情報を選別する。 引用を加え、構成を考えながら、章ごとに論文を執筆する。	
	第4回	卒業研究④ 目次・序論・結論作成	論文の内容を章ごとに正確に示す目次を作成する。 論文のねらいと展開を簡潔で明快に示す序論を作成する。 注と参考文献の一覧をルールに従って正確に作成する。	
	第5回	卒業研究⑤ 全体の推敲・校正、口頭試問、卒業研究発表	論理展開を中心に本文を丁寧に推敲し全体を改善する。 論文全体を見直し、文章を丁寧に校正する。 卒業研究のまとめとして卒論発表用のレジュメを準備し、論文の内容を口頭で発表する。	
	第6回			
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
		試験		
授業の進め方	課題発表とディスカッション(毎週)、個別面談(適宜)、中間発表(前期末)、口頭試問(卒論提出後)、卒論研究発表(後期末)			
授業外学習の指示	各自の研究テーマに関する先行研究を読み、課題に取り組み、ペーパーを提出する(120分)。 返却された課題の修正点や疑問点を整理し、次回のペーパー作成につなげる(120分)。  (授業外学習時間: 毎週 分)			

教科書	適宜プリントを使用する。
参考書	各自のテーマに沿った参考文献等を授業時に指示する。
参考URLなど	
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	山本 佳子	担当教員					

授業の概要	精神障害、不登校、職場不適応等のメンタルヘルスにかかわる問題や認知機能能力と心理的問題との関係、偏見などについて、卒業研究としてまとめることを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分で、今までの学習内容や生活上の経験等から、臨床心理学の課題を見つけることができる。</li> <li>2. 課題解決のために、先行研究を参考にしながら研究計画を作ることができる。</li> <li>3. 科学的な方法を用いて、研究を遂行できる。</li> <li>4. 得られた結果を目的や仮説に沿って統計解析し、結果を導き出すことができる。</li> <li>5. 研究経緯や結果をわかりやすくまとめることができる。</li> <li>6. 結果について、先行研究を踏まえて、適切に考察・評価することができる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	自分のテーマを見失わないように、問題意識をはっきりさせておくこと						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分で、今までの学習内容や生活上の経験等から、臨床心理学の課題を見つけることができる。</li> <li>2. 課題解決のために、先行研究を参考にしながら研究計画を作ることができる。</li> <li>3. 科学的な方法を用いて、研究を遂行できる。</li> <li>4. 得られた結果を目的や仮説に沿って統計解析し、結果を導き出すことができる。</li> <li>5. 研究経緯や結果をわかりやすくまとめることができる。</li> <li>6. 結果について、先行研究を踏まえて、適切に考察・評価することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分で、今までの学習内容や生活上の経験等から、臨床心理学の課題を見つけることができる。</li> <li>2. 課題解決のために、先行研究を参考にしながら研究計画を作ることができる。</li> <li>3. 科学的な方法を用いて、研究を遂行できる。</li> <li>4. 得られた結果を目的や仮説に沿って統計解析し、結果を導き出すことができる。</li> <li>5. 研究経緯や結果をわかりやすくまとめることができる。</li> <li>6. 結果について、先行研究を踏まえて、適切に考察・評価することができる。</li> <li>7. 進度に応じて、自ら、問題背景・目的・方法・結果などが適切に論文として執筆できる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		100%
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	課題に対しては、個別に毎回フィードバックを行う
---------------	-------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	卒業研究テーマの例 対人緊張と日常言語表現量の関係	対人緊張と日常の言語表現量との関係性を明らかにする。 緊張の強い人たちが、無口でいるものか？ 多弁な人は対人緊張がないのか？	
	第2回			
	第3回			
	第4回			
	第5回			
	第6回			
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
試験	行わない			

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回			
	第17回			
	第18回			
	第19回			
	第20回			
	第21回			
	第22回			
	第23回			
	第24回			
	第25回			
	第26回			
	第27回			
	第28回			
	第29回			
	第30回			
	試験	行わない		
授業の進め方		研究遂行に応じて、担当教員の指導を受ける		
授業外学習の指示		各自のテーマに沿って研究・執筆を行う (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	必要に応じて、適宜指示する
参考書	必要に応じて、適宜指示する
参考URLなど	
その他	e-ポートフォリオ「manab@IMU」に、研究を進めるうえでの必要資料を掲載していくので、研究の進行状況や分析法などの必要に応じて参考にすること。

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	佐原太郎	担当教員					

授業の概要	これまでの学びの集大成となる、卒業研究の実施ならびに卒業論文の作成をすることを目的とする。具体的には、(1)統計・データや先行研究の収集・整理、(2)研究テーマと研究目的の設定、(3)調査方法の設定と実施、(4)分析枠組みの検討、(5)結果の分析と考察を行った上で、(6)卒業論文の作成を行い、その後、(7)研究発表を行う。
到達目標	1. 既存資料を収集し、研究テーマを決定し、研究計画を立てることができる。 2. 経営学の分析枠組みに基づいて、調査結果を分析することができる。 3. 研究成果をまとめ、卒業論文を作成し、研究発表を行うことができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	情報を収集し、整理し、分析するには膨大な時間を必要とする。時間に余裕をもって、計画的に進めること。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 既存資料を収集・整理し、研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。 2. 経営学の分析枠組みを用いて、調査結果の分析ができる。 3. 指定された分量および構成の卒業論文を作成することができる。 4. 所定の様式で発表資料を作成し、時間内での研究発表を行うことができる。	1. 先行研究をまとめ、学術的に独創性のある研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。 2. 妥当性・信頼性の高い方法でデータを取得し、多面的な手法で分析ができる。 3. 論理的な文章構成で、説得力のある卒業論文を作成することができる。 4. 聴衆の理解度に合わせて、内容を調整しながら研究発表をし、質疑にも適切に対応できる。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
既存情報の収集・整理	○	○	○				20%
論文内容	○	○	○	○	○		60%
研究発表	○			○	○		20%

課題、評価のフィードバック	1. 情報の収集・整理、ならびに研究テーマ・研究計画の立案に際し、適宜コメントする。 2. 調査の準備、実施、ならびに分析枠組みの検討に際し、その進捗のスピードも含めて定期的にコメントする。 3. 論文執筆、研究発表の準備の際にも適宜コメントをし、より完成度の高い卒業論文作成を目指す。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回			
	第2回			
	第3回			
	第4回			
	第5回			
	第6回			
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験			
授業の進め方				
授業外学習の指示		<p>研究の実施にあたり、先行研究に関する文献を読み込む(毎週120分程度)。また、研究目的・方法の検討、調査の準備・実施を計画的に行う(毎週120分程度)。さらに、調査結果の整理・分析・考察を行い、論文を計画的に執筆する(毎週120分程度)。</p> <p>(授業外学習時間: 毎週 分)</p>		

教科書	必要に応じて適宜指示する。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
参考URLなど	必要に応じて適宜指示する。
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	高木竜輔	担当教員					

授業の概要	この授業では卒業論文を指導教員からのコメントに基づきながら執筆していくことを目標とする。卒業論文は四年間の大学生活の集大成というべきものである。自らが設定したテーマに基づき調査研究をおこない、答えを出す一連のプロセスが卒業論文である。その卒業論文の作成にむけて必要な知識や注意すべき点について理解した上で、卒業論文の執筆をおこなう。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文執筆にあたり、自分の問題関心に即したリサーチクエスチョンを立てることができる。</li> <li>2. リサーチクエスチョンに基づき、論文の構成を立てることができる。</li> <li>3. リサーチクエスチョンに基づきデータを収集し、仮説を検証することができる。</li> <li>4. 集めたデータに基づいて卒業論文を執筆することができる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	リサーチクエスチョンの立案、先行研究、先行データの収集と検討、調査の実施など、論文執筆には時間がかかる。教員との連絡を含めて、計画的に執筆すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究を探索し、その上でリサーチクエスチョンを立てることができる。</li> <li>2. リサーチクエスチョンに基づきデータを収集し、仮説を検証することができる。</li> <li>3. 集めたデータに基づいて卒業論文を執筆することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究を探索し、その上で学術的研究に即したリサーチクエスチョンを立てることができる。</li> <li>2. リサーチクエスチョンに基づきデータを適切に収集し、仮説を検証することができる。</li> <li>3. 集めたデータを吟味し、適切な構成にて卒業論文を執筆することができる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
先行研究のレビュー	○	○	○				10%
リサーチクエスチョンを立てる	○	○	○				15%
調査の実施	○	○			○		15%
データ分析と解釈	○	○			○		10%
論文執筆	○	○		○			35%
研究発表		○	○	○			15%

課題、評価のフィードバック	問題関心の確定から先行研究の探索、仮説の構築、実査、論文執筆の全課程において、授業ならびに個別に指導する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	講義の進め方、受講に際しての注意点について理解する。	
	第2回	問題関心の設定	各自の関心あるテーマについて、社会学の卒業論文として執筆可能かどうかを検討することができる。	
	第3回	先行研究のレビュー(1)	各自が決めたテーマについて、文献検索をおこない、先行研究のリストを作成することができる。	
	第4回	先行研究のレビュー(2)	各自が決めたテーマについて、先行研究を収集し、読み、その内容を理解することができる。	
	第5回	先行研究のレビュー(3)	複数の先行研究について、その内容を要約し、内容の批判的検討をおこなうことができる。	
	第6回	リサーチクエスト(1)	先行研究のレビューをふまえた上で、各自が取り組むリサーチクエストを明確にすることができる。	
	第7回	リサーチクエスト(2)	先行研究のレビューをふまえた上で、各自が取り組むリサーチクエストを明確にすることができる。	
	第8回	既存データの収集(1)	各自のテーマについて、国勢調査データなど官庁統計を収集し、整理することができる。	
	第9回	既存データの収集(2)	各自のテーマについて整理した官庁統計について、エクセルを用いて表やグラフを作成することができる。	
	第10回	論文の構成を作成する(1)	作成した卒業論文のアウトラインについて、教員と相談し、修正することができる。	
	第11回	論文の構成を作成する(2)	作成した卒業論文のアウトラインについて、教員と相談し、修正することができる。	
	第12回	調査対象を決める(1)	各自のテーマに沿った調査対象者についてリストアップをおこなうことができる。	
	第13回	調査対象を決める(2)	調査対象を選択し、調査のお願い状を書くことができる。	
	第14回	調査の準備をする(1)	調査対象に関して資料を収集し、具体的な調査項目をリストアップすることができる。	
	第15回	調査の準備をする(2)	調査対象に即した調査データを収集することができる。	
		試験		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	卒業論文の中間報告(1)	これまでに調べたことをもとに、中間的な報告をおこなうことができる。	
	第17回	卒業論文の中間報告(2)	これまでに調べたことをもとに、中間的な報告をおこなうことができる。	
	第18回	調査データから知見を引き出す(1)	調査の過程で得られた各種データについて、そこから知見を導き出すことができる。	
	第19回	調査データから知見を引き出す(2)	調査の過程で得られた各種データについて、そこから知見を導き出すことができる。	
	第20回	調査データから知見を引き出す(3)	調査の過程で確認し忘れたこと、新たに確認すべきことをリストアップし、追加の調査を実施することができる。	
	第21回	調査データから知見を引き出す(4)	調査の過程で確認し忘れたこと、新たに確認すべきことをリストアップし、追加の調査を実施することができる。	
	第22回	卒業論文を執筆する(1)	最初に作成した論文のアウトラインに、これまでに作成したデータや、調査した内容に位置づけながら、卒業論文を執筆する。	
	第23回	卒業論文を執筆する(2)	最初に作成した論文のアウトラインに、これまでに作成したデータや、調査した内容に位置づけながら、卒業論文を執筆する。	
	第24回	卒業論文を執筆する(3)	担当教員のコメントをもとに卒業論文を執筆する。	
	第25回	卒業論文を執筆する(4)	担当教員のコメントをもとに卒業論文を執筆する。	
	第26回	論文要旨を作成する	執筆した自分の卒業論文について、要旨を作成することができる。	
	第27回	卒業論文の提出	卒業論文の執筆要項に基づき、形式を整え、提出することができる。	
	第28回	卒業論文の報告会(1)	卒業論文の内容を踏まえて報告資料を作成し、口頭にて報告することができる。	
	第29回	卒業論文の報告会(2)	卒業論文の内容を踏まえて報告資料を作成し、口頭にて報告することができる。	
	第30回	全体のまとめ	卒業論文の作成過程を振り返り、論文で達成できた点と課題について振り返ることができる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方	個別指導、中間報告会および卒業論文報告会などを通じて卒業論文に対する指導をおこなう。			
授業外学習の指示	<p>日頃から新聞を読み、自分の研究テーマに関連する記事ならびに論文を収集しておくこと(90分)。  個別報告については、事前に教員と面談をおこない、報告内容についてコメントをもらうこと。  報告後は速やかに議論した内容をまとめ、不明な点は教員に確認すること(90分)。</p> <p>(授業外学習時間: 毎週 240 分)</p>			

教科書	使用しない。
参考書	使用しない。
参考URLなど	適宜、個別指導に応じて伝える。
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	高島 翠	担当教員					

授業の概要	卒業研究は、これまで修得してきた知識に基づいて自ら研究し、新しい知見を与えるための集大成の科目である。スケジュール管理・文献調査・研究の計画・研究の実施・データの分析・結果の解釈を通し、論文としてまとめる必要がある。心理学に関する研究を通して心理学への興味と理解を深め、科学的な考えを修得するとともに、その修得した知識を用いて自ら研究することを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>卒業研究に必要な研究方法について説明できる。</li> <li>卒業研究に必要な研究方法を実践できる。</li> <li>卒業研究に必要な統計手法について説明できる。</li> <li>卒業研究に必要な統計手法を実践できる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)							
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>卒業研究の研究方法について説明できる。</li> <li>必要な研究方法を実践することができる。</li> <li>卒業研究に必要な統計手法を実施することができる。</li> <li>自分の卒業研究の発表を行うことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>先行研究をもとに、自分の実施する卒業研究に必要な研究方法について説明できる。</li> <li>卒業研究に必要な研究方法を実践し、データを集めることができる。</li> <li>卒業研究に必要な統計手法について説明し、結果を解釈することができる。</li> <li>自分の卒業研究の意義とその結果について、肯定的に説明することができる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○			20%
卒業論文および口述諮問	○	○	○		○		80%

課題、評価のフィードバック	必要に応じてフィードバックをおこなう
---------------	--------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	研究テーマの例 錯視の成立条件の解明	幾何学的錯視・色の錯視等を選び、それらの錯視が生じる条件を、実験を通して明らかにする	
	第2回	研究テーマの例 情報のデザイン	日常生活にある情報のデザインをとりあげ、どのような色やかたちであればより正確に情報を得ることができるか、間違いが少ないのかを、研究を通して明らかにする	
	第3回	研究テーマの例 色とかたちによるイメージの変化	いるやかたちなどを変化させることでその対象に対する印象がどのように変化するのか、SD法等を用いて明らかにする	
	第4回	研究テーマの例 重さの錯覚の成立条件	見た目の大きさによって判断が異なる重さの錯覚をとりあげ、どのような変化が重さの判断に影響を与えるのかを明らかにする	
	第5回	研究テーマの例 知覚情報による時間判断の変化	リズムや画像などの視聴覚情報をもとに、時間知覚がどのように変化するのか、実験を通して明らかにする	
	第6回	研究テーマの例 環境評価	ある側面に着目した写真を集め、その環境に対する印象・イメージの評価を求めることで、より住みやすい環境を研究を通して明らかにする	
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
		試験		
授業の進め方				
授業外学習の指示		<p>【復習】研究を実施するにあたり、先行研究に関する文献を講読することが前提となる。また、実験の事前準備は重要であり、得られたデータの整理と解釈も重要である。</p> <p>(授業外学習時間: 毎週 180 分)</p>		

教科書	使用しない
参考書	適宜紹介する
参考URLなど	
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	高橋義考	担当教員					

授業の概要	ロボットの制作、ロボットの運動解析、ロボットに関連した新技術開発を行う。ゼミナールで培ってきた知識、技術を用いロボットに関する課題に取り組み、論文を作成する。具体的には、論文作成に必要な研究テーマの構築、実験、考察、論文作成、研究発表を行う。						
到達目標	1) 研究テーマの先行研究に関する文献を講読し、研究の課題を説明することができる。 2) ロボットに関する研究手法を習得し、実験を進めることができる。 3) 研究結果をまとめ、卒業研究論文を作成することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	研究目的の設定や実験の準備・実施、結果の分析・考察、そして論文執筆に至るまで、いずれも手間と時間を要する作業である。したがって、時間に余裕を持って計画的に進めていくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 先行研究をまとめ、研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。 2. 実験を通してデータを取得し、適切な手法で分析ができる。 3. 指定された分量および構成の卒業論文を作成することができる。 4. 所定の様式で発表資料を作成し、時間内での研究発表を行うことができる。	1. 先行研究をまとめ、学術的に独創性のある研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。 2. 妥当性・信頼性の高い方法でデータを取得し、多面的な手法で分析ができる。 3. 論理的な文章構成で、説得力のある卒業論文を作成することができる。 4. 聴衆の理解度に合わせて、内容を調整しながら研究発表をし、質疑にも適切に対応できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
研究テーマと研究計画	○	○	○				25%
検証実験		○	○		○		25%
データ分析	○	○	○				25%
論文作成と成果発表	○	○	○	○	○		25%

課題、評価のフィードバック	1. 先行研究の収集・検討、ならびに研究テーマ・研究計画の立案に際し、適宜コメントする。 2. 実験・調査の準備、実施、ならびにデータの分析・考察に際し、その進捗のスピードも含めて定期的にコメントする。 3. 論文執筆、研究発表の準備の際にも適宜コメントをし、より完成度の高い卒業論文作成へと導いてゆく。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	卒業研究テーマの例1 サッカー競技用ロボットの自律システムの開発	サッカー競技用ロボットに求められる自律システムの開発を試みる。歩行動作や起き上がり動作について、サッカー競技に適した動作を検討する。	
	第2回	卒業研究テーマの例2 サッカー競技用ロボットのボール検出システム開発	サッカー競技用ロボットに求められるボール検出システムを検討する。マイコンによる画像処理で、ボールの色、形を検出するプログラム開発を試みる。	
	第3回	卒業研究テーマの例3 コンピュータシミュレーションによる運動解析	コンピュータシミュレーション技術を用い、仮想空間でメカの運動評価を行う。提案したロボットの動作確認と、性能評価を試みる。	
	第4回			
	第5回			
	第6回			
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
		試験		
授業の進め方				
授業外学習の指示		<p>研究の実施にあたり、先行研究に関する文献を読み込む(毎週120分程度)。  また、研究目的・方法の検討、刺激・装置・質問紙などの準備を計画的に行う(毎週120分程度)。  さらに、得られたデータの整理・分析・考察を行い、論文を計画的に執筆する(毎週120分程度)。  (授業外学習時間: 毎週 分)</p>		

教科書	必要に応じて適宜指示する。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
参考URLなど	
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	窪田文子	担当教員					

授業の概要	<p>ひとのこころの働きや行動の特徴に関するテーマを設定して、それについて心理学の研究法を用いて実証的に解明し、その結果を論文にまとめて報告することを目的とする。具体的には、先行研究を調べてテーマを設定し、研究を計画し、研究計画に基づいてデータの収集、分析を行う。そして、その成果を論文にまとめて報告し、4年間の学びのまとめとする。</p> <p>□</p>
到達目標	<p>1. 先行研究を熟読し、研究テーマの位置づけについて説明することができる。</p> <p>2. 研究テーマにふさわしい研究計画を立てることができる。</p> <p>3. 研究計画に沿って、研究を実施することができる。</p> <p>4. その成果を研究論文にまとめて、報告することができる。</p>
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	<p>関心を持つテーマに関する先行研究の文献検索から始まり、卒論テーマの設定、研究の計画、研究計画に沿ったデータ収集と分析、それらの結果を論文にまとめて成果を報告するまで一連の研究過程は、地道な努力の積み重ねです。就職活動と並行して行うことは、どちらも初めてのことなので容易なことではないと思いますが、計画的に進めてください。</p>
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<p>1. 先行研究をまとめて、研究テーマを設定し、適切な研究計画を立てることができる。</p> <p>2. 研究計画に沿ってデータを収集し、適切な手法を用いて分析ができる。</p> <p>3. 2で得られた結果を、研究論文の形にまとめられる。</p> <p>4. 所定の形式で発表資料を作成し、時間内に研究成果を発表できる。</p>	<p>1. 先行研究をまとめて、オリジナリティのある研究テーマを設定し、適切な研究計画を立てることができる。</p> <p>2. 妥当性・信頼性の高い研究計画をたて、研究倫理に配慮してデータを収集し、適切な手法を用いて分析ができる。</p> <p>3. 2で得られた結果を、論旨が明快な研究論文の形にまとめられる。</p> <p>4. わかりやすい発表資料を作成し、時間内に研究成果を発表し、質問に対して適切に回答できる。</p>

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
先行研究のまとめとテーマの設定	○	○	○				25%
研究計画	○	○			○		25%
データ収集と分析	○	○			○		25%
結果のまとめと発表	○	○	○	○	○		25%

課題、評価のフィードバック	<p>1. 毎授業で進行報告を受け、ゼミ生全員で意見交換し、今後の方向性を整理する。</p> <p>2. 論文作成については下書きを添削し、返却する。</p> <p>3. 卒論発表会に向けて、発表原稿をチェックする。</p>
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	卒業研究のテーマの例1 マインドワンダリングと楽観性・悲観性との関係	マインドワンダリングの内容と楽観性・悲観性との関連について検討した	
	第2回	卒業研究のテーマの例2 視覚情報と聴覚情報の一致・不一致が感情状態に与える影響	視覚情報と聴覚情報が一致している場合と一致していない場合とで感じ方がどのように違うのかについて検討した	
	第3回			
	第4回			
	第5回			
	第6回			
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
		試験		
授業の進め方				
授業外学習の指示		研究計画に沿って、必要な活動を行い、それを授業で発表できるようにまとめる。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	必要に応じて適宜指示する。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
参考URLなど	
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	金世煥	担当教員					

授業の概要	様々な企業や組織のマーケティング戦略を成功事例と失敗事例を中心に学習しながら、それに基づいて自分なりの実践的なマーケティング戦略案を論理的にまとめる力を養成することともに、卒業研究の実施に向けて、研究テーマの設定や関連文献資料の講読、そして論理性を保った研究論文の作成を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティング分野に関連したデータを収集・分析し、まとめ発表することができる。</li> <li>2. マーケティングの事例に関するデータを収集・分析し、グループディスカッションすることができる。</li> <li>3. 関心あるテーマを中心に、卒業論文を執筆することができる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	文献購読、レジュメ作成、ならびにその発表については十分な準備が必要である。自分が発表する文献のなかで不明な点がある場合には、必ず発表前に調べておくこと。また、自分が発表担当ではない場合にも、文献を読み、質問できるように準備しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献を読み、文章の構造を理解した上で、レジュメを作成し、発表することができる。</li> <li>2. 発表内容に関する質問に対して、答えを文献内から見つけ出すことができる。</li> <li>3. 関心あるテーマに対し、論文を作成することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献を批判的に読み込み、自分の意見や疑問点についても言及しているレジュメを作成し、柔軟に内容を調整しながら発表できる。</li> <li>2. 発表内容に関する質問に対して、文献の論点にもとづきながら自分の考えを整理して答えることができる。</li> <li>3. 文献の論点にもとづきながら自分の考えを整理し、価値ある論文を作成することができる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○			15%
研究のプロセス	○	○			○		35%
分析の水準	○	○			○		35%
卒業論文の水準	○	○	○	○	○		15%
出席			○	○			加点はしないが、減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検索やレジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。</li> <li>2. グループでの調査内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正してゆく。</li> <li>3. 研究対象や研究方法について、適宜コメントする。</li> </ol>
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	卒論テーマ設定に関する話題提供と資料調査方法などの概略を説明する。	以下、2時間分の内容とする。
	第2回	卒論テーマの設定1	関心あるテーマを中心にグループディスカッションを行い、卒論テーマを設定する。	
	第3回	卒論テーマの設定2	関心あるテーマを中心にグループディスカッションを行い、卒論テーマを設定する。	
	第4回	先行研究の発表と確認1	先行研究の発表内容を中心にグループディスカッションを行い、その内容を相互確認する。	
	第5回	先行研究の発表と確認2	先行研究の発表内容を中心にグループディスカッションを行い、その内容を相互確認する。	
	第6回	先行研究の発表と確認3	先行研究の発表内容を中心にグループディスカッションを行い、その内容を相互確認する。	
	第7回	卒論テーマに関する研究方法の確認1	卒論テーマに関する研究方法を確認し、グループディスカッションを通じて、適合性を議論する。	
	第8回	卒論テーマに関する研究方法の確認2	卒論テーマに関する研究方法を確認し、グループディスカッションを通じて、適合性を議論する。	
	第9回	卒業論文の中間発表1	ゼミ内で卒業論文の中間発表を行い、グループディスカッションを通じて、適合性を議論する。	
	第10回	卒業論文の中間発表2	ゼミ内で卒業論文の中間発表を行い、グループディスカッションを通じて、適合性を議論する。	
	第11回	卒業論文の進捗確認1	卒業論文の進捗確認を行い、グループディスカッションを通じて、適合性を議論する。	
	第12回	卒業論文の進捗確認2	卒業論文の進捗確認を行い、グループディスカッションを通じて、適合性を議論する。	
	第13回	卒業論文の進捗確認3	卒業論文の進捗確認を行い、グループディスカッションを通じて、適合性を議論する。	
	第14回	卒業論文の最終確認1	卒業論文の最終確認を行う。	
	第15回	卒業論文の最終確認2	卒業論文の最終確認を行う。	
	試験	実施しない。		
授業の進め方				
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	適宜、演習内で紹介する。
参考書	適宜、演習内で紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	この演習は、文献調査・発表やグループ実験・調査などを通して、卒業研究に必要とされる知識と技能の修得を目的とする。欠席はゼミ活動に支障をきたすため、必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する際は事前に担当教員に連絡すること。

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	玉懸元	担当教員					

授業の概要	先行研究の講読を行った後、卒業論文の構想発表をし、研究テーマを定める。その後、各自研究を進める。その過程では、教員の指導を得ながら、中間発表を繰り返す。以上を通して、卒業論文を完成させることがこの科目の目的である。
到達目標	(1) 論文の標準的な「構成」や「体裁」に則った卒業論文を完成させる。 (2) 独自の知見や資料的価値を有する卒業論文を完成させる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で取り上げる先行研究だけでなく、各自でできるだけ多くの先行研究を読み込むこと。</li> <li>・「取り組みたいテーマ」と「(はじめて論文を作成するに際して)取り組みやすいテーマ」とのバランスを考慮して研究テーマを選定すること。</li> <li>・独自の資料(分析の材料。「この資料を持っているのは世界で私だけ」と言える資料)を得るよう努めること。</li> <li>・資料の分析、分析結果の記述については、随時、教員と相談しながら進めること。また、他の受講生の意見に耳を傾けること。</li> <li>・万事、計画的に進めること。</li> </ul>
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	○ 2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	○ 5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
(1) 論文の標準的な「構成」や「体裁」に則った卒業論文を完成させる。	(1) 論文の標準的な構成や体裁に則った卒業論文を完成させる。 (2) 独自の知見や資料的価値を有する卒業論文を完成させる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○			60%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○			20%
授業態度・授業への参加			○	○			20%

課題、評価のフィードバック	主に個別面談において、各自の論文作成状況に応じたアドバイスやコメントを行う。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	この科目全体についてガイダンスを行う。	
	第2回	先行研究の講読①	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第3回	先行研究の講読②	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第4回	先行研究の講読③	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第5回	先行研究の講読④	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第6回	先行研究の講読⑤	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第7回	先行研究の講読⑥	受講生の関心に応じた先行研究の講読を行う。	
	第8回	卒業論文構想発表①	受講生それぞれが卒業論文で取り上げようとする研究テーマについて、構想発表を行う。	
	第9回	卒業論文構想発表②	受講生それぞれが卒業論文で取り上げようとする研究テーマについて、構想発表を行う。	
	第10回	卒業論文構想発表③	受講生それぞれが卒業論文で取り上げようとする研究テーマについて、構想発表を行う。	
	第11回	卒業論文中間発表の準備	第8回～第10回の授業を通して定めた研究テーマについて、研究を進め、中間発表の準備をする。	
	第12回	卒業論文中間発表の準備	第8回～第10回の授業を通して定めた研究テーマについて、研究を進め、中間発表の準備をする。	
	第13回	第1回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第14回	第1回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第15回	第1回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
		試験	定期試験は行わない。	

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	第2回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第17回	第2回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第18回	第2回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第19回	第3回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第20回	第3回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第21回	第3回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第22回	第4回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第23回	第4回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第24回	第4回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第25回	第5回卒業論文中間発表①	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第26回	第5回卒業論文中間発表②	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第27回	第5回卒業論文中間発表③	受講生それぞれが卒業論文の中間発表を行う。	中間発表は、教員との個別面談で行う場合と、受講生全員で集まって行う場合がある。
	第28回	卒業論文の最終調整①	受講生それぞれが卒業論文の最終的な仕上げを行う。	最終調整では、論文内容はもちろん、体裁(たとえば表紙や目次を付けるなど)にも気を配ること。
	第29回	卒業論文の最終調整②	受講生それぞれが卒業論文の最終的な仕上げを行う。	最終調整では、論文内容はもちろん、体裁(たとえば表紙や目次を付けるなど)にも気を配ること。
	第30回	卒業論文の最終調整③	受講生それぞれが卒業論文の最終的な仕上げを行う。	最終調整では、論文内容はもちろん、体裁(たとえば表紙や目次を付けるなど)にも気を配ること。
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方	演習形式			
授業外学習の指示	必要な授業外学習を卒業論文作成の進行状況に応じて指示する。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)			

教科書	適宜、資料を配付する。
参考書	授業中に指示する。
参考URLなど	授業中に指示する。
その他	

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	久呉高之	担当教員					

授業の概要	4年間の学修の集大成として卒業論文を作成する過程を通じ、さまざまな表現文化の読解能力と自己表現能力とを最大限まで向上させ、自らが学問にかかわったことの意義を十分に認識することを目標とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べるができる。</li> <li>2. 提出した論述文の論理展開の不備を指摘し、章分け、節分けの妥当性について説明することができる。</li> <li>3. 教員の具体的指導のもと、論理展開を中心に、「論述」としての堅固さを達成する是正を施す。</li> <li>4. 卒論提出者全員の論文のポイントと論理展開とについて、互いに適切に質疑応答することができる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献や議論をもとにして、とにかく考えること。不明な哲学的概念については、必ず参考書で調べる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	<input type="radio"/>	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	<input type="radio"/>	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	<input type="radio"/>	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	<input type="radio"/>	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	<input type="radio"/>	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べるができる。</li> <li>2. 提出した論述文の論理展開の不備を指摘し、章分け、節分けの妥当性について説明することができる。</li> <li>3. 教員の具体的指導のもと、論理展開を中心に、「論述」としての堅固さを達成する是正を施す。</li> <li>4. 卒論提出者全員の論文のポイントと論理展開とについて、互いに適切に質疑応答することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べるができる。</li> <li>2. 提出した論述文の論理展開の不備を指摘し、章分け、節分けの妥当性について説明することができる。</li> <li>3. 教員の具体的指導のもと、論理展開を中心に、「論述」としての堅固さを達成する是正を施す。</li> <li>4. 卒論提出者全員の論文のポイントと論理展開とについて、互いに適切に質疑応答することができる。</li> </ol>

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
レジュメ作成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		20%
プレゼン	<input type="radio"/>	30%					
質疑応答	<input type="radio"/>	30%					
授業態度・授業への参加			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	20%
出席			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検索やレジュメ作成・発表のさいに、適宜コメントする。</li> <li>2. 発表の内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正していく。</li> <li>3. 提出物にたいして、そのつど必ず添削を施し、次回の提出物にその添削が反映されているかどうかを調べる。</li> </ol>
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	テーマ設定 1	ゴールデン・ウィーク明けまでのテーマ確定に向けて、論述内容の見通しを述べる。	
	第2回	テーマ設定 2	ゴールデン・ウィーク明けまでのテーマ確定に向けて、論述内容の見通しを述べる。	
	第3回	テーマ設定 3	ゴールデン・ウィーク明けまでのテーマ確定に向けて、論述内容の見通しを述べる。	
	第4回	参考文献等資料の収集	ゴールデン・ウィーク明けまでに参考文献3冊以上と他の資料とを収集する。	
	第5回	アウトライン作成 1	文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べる。	
	第6回	アウトライン作成 2	文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べる。	
	第7回	アウトライン作成 3	文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べる。	
	第8回	アウトライン作成 4	文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べる。	
	第9回	問題点の洗い出し 1	文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べる。	
	第10回	問題点の洗い出し 2	文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べる。	
	第11回	問題点の洗い出し 3	文献・資料の分析をふまえ、問題点とその解決の見通しについて述べる。	
	第12回	論述文の作成	10月末を目処として、原稿用紙換算20枚程度の論述文を提出する。	
	第13回	論理展開等の見直し 1	提出した論述文の論理展開の不備を指摘し、章分け、節分けの妥当性について説明する。	
	第14回	論理展開等の見直し 2	提出した論述文の論理展開の不備を指摘し、章分け、節分けの妥当性について説明する。	
	第15回	論理展開等の是正 1	教員の具体的指導の下、論理展開を中心に、「論述」としての堅固さを達成する是正を施す。	
試験	試験は実施しない。			

	回次	テーマ	授業内容	備考	
授業計画	第16回	論理展開等の是正 2	教員の具体的指導の下、論理展開を中心に、「論述」としての堅固さを達成する是正を施す。		
	第17回	卒論雛型提出	11月末を目処として、原稿用紙換算30枚以上の論文を提出する。		
	第18回	卒論雛型の見直し 1	提出した卒論雛型の、あらゆる点に関する不備を、教員の指導にしたがい是正する。		
	第19回	卒論雛型の見直し 2	提出した卒論雛型の、あらゆる点に関する不備を、教員の指導にしたがい是正する。		
	第20回	卒論雛型の見直し 3	提出した卒論雛型の、あらゆる点に関する不備を、教員の指導にしたがい是正する。		
	第21回	仮卒論提出	12月上旬を目処として、すでに提出した論文の改訂版を提出する。		
	第22回	仮卒論の見直し	提出した仮卒論の、主要な点に関する不備を、教員の指導にしたがい是正する。		
	第23回	仮卒論の是正 1	提出した仮卒論の、あらゆる点に関する不備を、教員の指導にしたがい是正する。		
	第24回	仮卒論の是正 2	提出した仮卒論の、あらゆる点に関する不備を、教員の指導にしたがい是正する。		
	第25回	仮卒論の是正 3	提出した仮卒論の、あらゆる点に関する不備を、教員の指導にしたがい是正する。		
	第26回	卒論の見直し 1	提出した卒論について、反省すべき点を表明する。		
	第27回	卒論の見直し 2	提出した卒論について、反省すべき点を表明する。		
	第28回	卒論の見直し 3	提出した卒論について、反省すべき点を表明する。		
	第29回	口頭試問	提出した卒論について、その要点と問題点とを確認する。		
	第30回	卒業研究発表会	卒論提出者全員の論文のポイントと論理展開とについて、互いに適切に質疑応答する。		
		試験	口頭試問をもって試験とする。		
	授業の進め方		原則としてゼミ生の発表で進める。		
授業外学習の指示		配付資料と参考書を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず参考書で確認するか教員に質問すること。余裕があれば、次回の講義に対応する参考書の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)			

教科書	配付プリントをテキストとする。
参考書	『岩波 哲学・思想事典』(本学図書館蔵)
参考URLなど	なし
その他	なし

科目名	卒業研究			ナンバリング	RLA271	授業形態	演習
対象学年	4年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	8単位
代表教員	菊池真弓	担当教員					

授業の概要	本研究では、専門ゼミ1・2を基礎に、卒業論文のテーマを設定し、先行研究および実証調査などを踏まえた論理的かつ科学的な論文をまとめて行くことを目標とする。また、個別指導の他に、中間報告会を開催し、報告や討論を繰り返しながら論文の完成を目指していきたい。						
到達目標	1.卒業論文のテーマ・キーワードに視点をあてた文献を講読・整理することができる。 2.個別報告およびグループ討論を行いながら、各自のテーマの問題点とその課題について説明することができる。 3.各自のテーマの仮説検証を目的とした社会調査の計画・実査・データ処理・分析・考察を行うことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	先行研究の収集・検討、研究目的の設定や社会調査等の準備・実査、結果の分析・考察、そして論文執筆に至るまで、いずれも手間と時間を要する作業である。したがって、時間に余裕を持って計画的に進めていくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.先行研究をまとめ、研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。 2.社会調査を通してデータを取得し、適切な手法で分析ができる。 3.指定された分量および構成の卒業論文を作成することができる。 4.所定の様式で発表資料を作成し、時間内での研究発表を行うことができる。	1.先行研究をまとめ、学術的に独創性のある研究テーマの決定、研究計画の立案ができる。 2.妥当性・信頼性の高い方法でデータを取得し、多面的な手法で分析ができる。 3.論理的な文章構成で、説得力のある卒業論文を作成することができる。 4.聴衆の理解度に合わせて、内容を調整しながら研究発表をし、質疑にも適切に対応できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
先行研究の総括	○	○	○				10%
研究テーマ・研究計画	○	○	○				10%
社会調査の実施		○		○	○		15%
データ分析	○	○			○		15%
論文内容	○	○	○	○	○		35%
研究発表	○			○	○		15%

課題、評価のフィードバック	①先行研究の収集・検討、研究テーマ・研究計画の立案、②社会調査の準備、データの分析・考察、③論文執筆、研究発表の準備に際しては、適宜コメントする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	卒業研究とは	卒業研究で学ぶべき目標と課題について理解し、それらの計画を立てることができる。	
	第2回	テーマ設定と論文作成の技法(1)	テーマ設定と論文作成の技法について理解し、各自の卒業論文のテーマ設定を行うことができる。	
	第3回	テーマ設定と論文作成の技法(2)	テーマ設定と論文作成の技法について理解し、各自の卒業論文のテーマ設定を行うことができる。	
	第4回	問題意識の明確化(1)	卒業論文のテーマに対する問題意識を明確にすることができる。	
	第5回	問題意識の明確化(2)	卒業論文のテーマに対する問題意識を明確にすることができる。	
	第6回	個別指導(1)	個別指導を通して、卒業論文のテーマおよび問題意識を整理することができる。	
	第7回	個別指導(2)	個別指導を通して、卒業論文のテーマおよび問題意識を整理することができる。	
	第8回	先行研究やデータなどの収集・分析(1)	卒業論文に関連した先行研究やデータなどの収集を行い、分析・考察を深めることができる。	
	第9回	先行研究やデータなどの収集・分析(2)	卒業論文に関連した先行研究やデータなどの収集を行い、分析・考察を深めることができる。	
	第10回	個別指導(3)	個別指導を通して、研究の位置づけや先行研究の整理をすすめることができる。	
	第11回	個別指導(4)	個別指導を通して、研究の位置づけや先行研究の整理をすすめることができる。	
	第12回	卒業論文の中間報告会(1)	個別指導を通して、研究の位置づけや先行研究の整理をすすめることができる。	
	第13回	卒業論文の中間報告会(2)	個別指導を通して、研究の位置づけや先行研究の整理をすすめることができる。	
	第14回	卒業論文の中間レポート提出	卒業論文のレジュメを作成して、中間報告を行うことができる。	
	第15回	前期のまとめ	前期の卒業研究を総括し、これまでの卒業論文の進捗状況を確認する。	
	試験	試験は実施しない。		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	卒業論文の進め方	各自の卒業論文の執筆状況に応じた後期の目標と計画を立てることができる。	
	第17回	個別指導(5)	個別指導を通して、卒業論文を書きすすめることができる。	
	第18回	個別指導(6)	個別指導を通して、卒業論文を書きすすめることができる。	
	第19回	引用・参考文献、出典の方法	卒業論文に関連した引用・参考文献、出典の方法に基づき、それらを整理することができる。	
	第20回	卒業論文の中間報告会(3)	卒業論文のレジюмеを作成して、中間報告を行うことができる。	
	第21回	卒業論文の中間報告会(4)	卒業論文のレジюмеを作成して、中間報告を行うことができる。	
	第22回	個別指導(7)	個別指導を通して、卒業論文を書きすすめることができる。	
	第23回	個別指導(8)	個別指導を通して、卒業論文を書きすすめることができる。	
	第24回	卒業論文の仮提出	卒業論文の仮提出を行うことができる。	
	第25回	個別指導(9)	個別指導を通して、卒業論文の推敲ができる。	
	第26回	個別指導(10)	個別指導を通して、卒業論文の推敲ができる。	
	第27回	卒業論文の提出	卒業論文の執筆要綱に基づき形式を整え、提出を行うことができる。	
	第28回	卒業論文の報告会(1)	卒業論文のレジюмеを作成して、報告を行うことができる。	
	第29回	卒業論文の報告会(2)	卒業論文のレジюмеを作成して、報告を行うことができる。	
	第30回	全体のまとめ	卒業研究を総括し、これまでの卒業論文の達成度を確認する。	
		試験	試験は実施しない。	
授業の進め方		卒業論文の個別指導、ゼミ全体で実施する中間報告会および卒業論文報告会などを実施する。		
授業外学習の指示		【予習】卒業論文の執筆を進めながら、疑問点を明らかにしておくこと(120分)。【復習】「個別指導・中間報告などの内容・助言」について復習しながら、理解できなかったところについてはさらに調べること(120分)。 (授業外学習時間： 毎週 240 分)		

教科書	テキストは使用しない。適宜、プリントを配付する。
参考書	適宜、個別指導に応じた文献を紹介する。
参考URLなど	適宜、個別指導に応じた参考URLなどを紹介する。
その他	

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	研究テーマの設定①	3年間の学修に基づき、各自が研究テーマを定める。また、ゼミメンバーのテーマについて、討論する。	
	第2回	研究テーマの設定②	3年間の学修に基づき、各自が研究テーマを定める。また、ゼミメンバーのテーマについて、討論する。	
	第3回	研究テーマの設定③	3年間の学修に基づき、各自が研究テーマを定める。また、ゼミメンバーのテーマについて、討論する。	
	第4回	研究テーマの設定④	3年間の学修に基づき、各自が研究テーマを定める。また、ゼミメンバーのテーマについて、討論する。	
	第5回	研究計画の策定①	各自が設定した研究テーマに基づき、研究計画を立てる。	
	第6回	研究計画の策定②	各自が設定した研究テーマに基づき、研究計画を立てる。	
	第7回	研究計画の策定③	各自が設定した研究テーマに基づき、研究計画を立てる。	
	第8回	研究計画の策定④	各自が設定した研究テーマに基づき、研究計画を立てる。	
	第9回	研究の遂行①	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第10回	研究の遂行②	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第11回	研究の遂行③	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第12回	研究の遂行④	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第13回	研究の遂行⑤	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第14回	研究の遂行⑥	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第15回	研究の遂行⑦	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
		試験	試験は行わない。	

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	研究の遂行⑧	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第17回	研究の遂行⑨	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第18回	研究の遂行⑩	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第19回	研究の遂行⑪	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第20回	研究の遂行⑫	研究計画に基づいて、文献研究、研究対象者の選定、調査用紙の作成、データ収集、データ解析等を順次行う。	
	第21回	論文執筆①	先行研究をまとめ、解析したデータの考察を行い、卒業論文を完成させる。	
	第22回	論文執筆②	先行研究をまとめ、解析したデータの考察を行い、卒業論文を完成させる。	
	第23回	論文執筆③	先行研究をまとめ、解析したデータの考察を行い、卒業論文を完成させる。	
	第24回	論文執筆④	先行研究をまとめ、解析したデータの考察を行い、卒業論文を完成させる。	
	第25回	論文執筆⑤	先行研究をまとめ、解析したデータの考察を行い、卒業論文を完成させる。	
	第26回	論文執筆⑥	先行研究をまとめ、解析したデータの考察を行い、卒業論文を完成させる。	
	第27回	論文執筆⑦	先行研究をまとめ、解析したデータの考察を行い、卒業論文を完成させる。	
	第28回	発表資料の作成①	卒業論文発表会用のプレゼンテーション用資料を作成する。	
	第29回	発表資料の作成②	卒業論文発表会用のプレゼンテーション用資料を作成する。	
	第30回	発表資料の作成③	卒業論文発表会用のプレゼンテーション用資料を作成する。	
		試験	試験は行わない。	
授業の進め方	テーマに基づく個別指導が中心になるが、中間段階での発表を数回求める。			
授業外学習の指示	卒業研究に関連する事項を、各自の研究テーマに基づいて個別に指示する。 (授業外学習時間: 毎週 60 分)			

教科書	使用しない。
参考書	講義時に紹介する。
参考URLなど	講義時に紹介する。
その他	受講者の素朴な興味・関心を、心理学的研究にまとめて論文化することが求められている。つまり、自分なりの「問題意識」を持つことが必要である。